

巻頭言

2024年度始業礼拝 「自分の場を離れて一步踏み出す」

ヨハネによる福音書8章31～32節 神学部長 才藤 千津子



³¹イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。

「私の言葉にとどまるならば、あなたがたは本当に私の弟子である。

³²あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にする。」

(聖書協会共同訳)

1. はじめに

新入生の皆さん、西南学院大学神学部へのご入学、おめでとうございます。また、ご来賓の皆さま、いつも神学部のためにお祈り、お支えくださり、感謝申し上げます。

今年の新入生の皆さんの中には、いろいろな背景を持った方達があります。神学部には、信仰の有無に関係なくキリスト教を学ぶ人たちのための「キリスト教人文学コース」と、将来教会で働くことを目指す人たちの「神学コース」があります。ですから、「キリスト教人文学コース」には高校を卒業してすぐ入学された方達が多く、一方で「神学コース」には、すでにいろいろな社会経験をされたあとで、改めて牧師として生きる人生に呼ばれて神学を学ばれる方々もいます。コースやこれまでの背景、学ぶ目的は違いますが、これから同じ神学部生として一緒に授業をとり、いろいろな行事に参加します。ともに学んでゆく神学部の仲間としてやってゆきましょう。

そして、どちらのコースの方々にとっても、これからの数年間をどう過ごすかは、皆さんの人生に大きな影響を与えることでしょう。今日はその初めに当たって、二つのことをお話したいと思います。

2. 「真理はあなたたちを自由にする」という言葉

さて、まず一つ目です。今日読んでいただきました聖書の言葉は、新約聖書のヨハネによる福音書の中の一節、イエスの言葉です。「真理はあなたがたを自由にする」というのは有名な言葉で、国立国会図書館にも掲げられています。図書館の本の中にあるさまざまな知識や知恵は、私たち人間をいろいろな思い込みや固定観念から解放し、自由な発想や生き

方へ導くと考えられているからでしょう。

しかし、この言葉の背景を読みとくと、聖書はそれとは異なった意味を私たちに伝えようとしているように思います。もう一度読んでみましょう。

³¹イエスは、ご自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「私の言葉にとどまるならば、あなたがたは本当に私の弟子である。

³²あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にする。」

真理とはなんなのでしょう。いろいろな答えがあるでしょうが、私は、二つの種類の真理があると思っています。一つは、誰もがいつでもどんな状況でも検証できる「客観的・普遍的真理」です。「科学的真理」とも言えるでしょう。これは、いつでも、誰にとっても変わりません。しかし、真理にはもう一つ別のタイプの真理もあります。それは、「主観的な意味についての真理、真実」です。

例えば、交通事故で愛する幼い子どもを亡くして悲しみにくれているお母さんは、「どうしてこの子は死んでしまったのでしょうか。」と悲痛な問いかけをしましょう。その時に、「事故で大怪我をして出血多量の結果、心停止しました。」と答えるのが科学的真理です。これは医学的には正しい説明ですが、しかし、このお母さんは、もちろんこの説明だけでは納得できません。母親の「なぜ、この可愛い子が、なぜ私の愛する子が」という問いは、客観的な死因の説明でなく、お母さんにとって、愛する子どもにとっての、人生の「意味」を問いかけているからです。この子どもの生きた意味やお母さんにとってのこの子への「愛のある関係」がそこでは問題です。

そして、私は、今日の聖書の箇所で行われている「真理を

「知る」とは、この後者の意味で使われていると思います。ですから、ここでの「知る」とは、一般的抽象的な意味での「真理や知識」を手にするものではありません。科学的に対象から距離をとって分析するのではなく、相手と親しい信頼関係に入ることによって初めてわかる真理を意味します。そこには真理を求める私たちの人間全体がかかわる「出会い」が起こるのです。

では、その時私たちは、誰と出会うのでしょうか。ヨハネによる福音書は、「私の言葉にとどまるならば、あなたがたは本当に私の弟子である。」と証言しています。「私」というのは、ここではイエス・キリストです。イエスの言葉に信頼を持って「とどまる」ものこそが、真にイエスの弟子だということです。すなわち、この聖書の箇所は、イエス・キリストの真理は、イエス・キリストの人格との「出会い」によって経験される、そしてそれは私たちの人生に意味を与え、私たちを励ます、私たちを自由にし、解放してゆくと語っています。これからの神学部の学びの中で、みなさんそれぞれ、自分にとってこの言葉の意味は何かを探究して行っていただきたいと思います。

さて、今申し上げたように、何かを学ぶことは、新しい何かに「出会うこと」です。そして、さまざまな「出会い」は、私たちを変えてゆき、自由にさせてゆきます。ぜひ神学部の生活の中で色々なことに出会って行ってください。

3. 「学ぶ」ことは、出会うことであり、常識を疑うことである

次に、2つ目にお話ししたいことです。

先日、この3月に卒業した先輩たちと教員とで、最後の懇談会をいたしました。その中で先輩たちの多くが、この神学部での数年間は、「私の人生のターニングポイントになった」とか、「物事にはいろんな考え方があると、多様な見方ができるようになった」と言いました。つまり、神学部の4年間の学びの中で、自分のものの見方や考え方が自由になった、それまでの思い込みや価値観から解放されて、より広いものの見方ができるようになったということです。それを聞いて、私は大変嬉しく思いました。なぜならば、それこそが、神学部の教育が目指していることの一つだからです。

では、自由になるためにはどうすれば良いのでしょうか。

私たちは「常識」に従って「みんなと同じように」生きるように教育されてきています。私たちが何かに束縛されている、縛られているというとき、実は、外からの何かの束縛に苦しめられているということと同時に、私たち自身が自分のそれまでの常識にとらわれているということはないのでしょうか。なぜならば、私たちは、「常識的な」人間として、この社会で成功するように社会や周りから圧力を受けているからです。そして、そうやって安全な場所にいれば心地よいこと

も確かです。

しかし、学問をするということは、それまで「常識」「当たり前」と思っていたことを疑い、批判的に見つめ直すことです。批判と単なる「非難」は違います。適切な「批判」とは、ものごとを検討し、考察し、評価・判断してゆくことであり、このような能力を体得することこそが、まさに大学教育の目的の一つなのです。

皆さんは、1960年代のアメリカでアフリカ系アメリカ人への人種差別と闘った、西南学院と同じバプテスト派の牧師マーティン・ルーサー・キング Jr. のことをご存知でしょう。彼は、人種差別は「当たり前」「変えることができない」と考える人がたくさんいた時代に、「普通の黒人（アフリカ系アメリカ人）」はこうあるべきだという考え方に命懸けで抵抗し、非暴力で差別抵抗運動を闘いました。彼は、それまでの社会のあり方に NO! と叫び、差別は仕方がないものとして大人しくそれに従うという「安全な場所を離れて」、危険な場所に踏み出したのです。

4. 世界に向かって一歩踏み出そう

キング牧師は、そのことで、この社会の中にある差別や抑圧、多くの人々の痛みに共感し、多くの人々を勇気づけました。彼は、暴漢によって暗殺されましたが、彼が「人種差別は当たり前」「仕方がない」と思われていた世界に勇気を持って抗議をしたことは、あの時代に生きた人々だけではなく、今もなお、多くの人々の心に深く刻まれ人々の人生に影響を与えているのです。

神学部に入學された皆さんが、これからの数年間の学びの中で、自分の身の周りの経験を越えて、世界の状況を理解しようとするこへと踏み出されますように祈っています。今日私は、みなさんに、常識の場、安全な自分の場所を離れて、この世界に向かって一歩踏み出しましょうと呼びかけたいと思います。

「幸いを創り出す生き方」

ペトロの手紙一 3 章 8 節～12 節



日本バプテスト連盟理事長 吉田 真司

【宣教】

皆さん、ご卒業おめでとうございます。

思い起こせば、私が本学を卒業したのは1997年3月で、今から27年前となります。それから北海道、大分、そして神奈川と三つの教会現場で牧師をしてきました。

在学当時は、神学部は干隈校地でしたが、一般教養課程や教職課程の受講のため、この西新校地と行ったり来たりでした。私が在学した当時は新たに人文学コースが創設されてからまだ歴史が浅い頃でした。

しかしその人文学コースの歴史が積み重ねられ、毎年多くの志願者・入学者が与えられ、そうして多くの方が神学を学んで社会に出ていけること、とても素晴らしいことだと思います。

どうでしょう、皆さん、神学することは楽しかったですか？神学しながらどんなことを考え、また将来に対するどんな方向性が示されたでしょうか？

神学コースの場合はその将来が教会現場である方が概ねですが、人文学コースの方々の多くは他の社会へ出ていけるでしょう。あつ、今回お一人、ミッションスクール（西南学院中高・私の母校）の教師になれると伺いました。私も教職課程を取り、北海道で聖書科の教師をする機会を与えられました。牧師との兼業でなかなかハードでしたが、そのように学んだことが活かされたこと、とても幸いでした。

話をもとに戻すと、ほとんどの方が教会とかミッションスクールとは異なる社会に出ていけると思います。でも、だからといってこの神学部で学んだことが活かせないかという、そうではなくて、大変活かせると思うのです。

神学というのは、その字の通り「神に関する学問」ですが、神について考えるとき、そこでは人間について考えたでしょう。また世界について考えたでしょう。命について、死について考えたでしょう。そうして、この世界の中で人間として「どう生きていったら良いのか」という問いを、その神学の学びから、聖書から、いつも投げかけられたのではないのでしょうか。

そのような学びは、人生のうちとても貴重だと思います。実は教会はいつも、年がら年中そういう学びをしているところなので、皆さん、卒業後も是非、教会に通い続けていただきたいと思います。・・・そんな有益な学びをなさって世に出ていける皆さんの前途に「幸い」があることを願って、そして、神の祝福を祈るために本日ここに立たせていただいています。

*

今読みました第一ペトロ3章10節にこうあります。「命を愛し、幸いな日々を過ごしたい人は」と・・・私たちは誰もが日々の生活の中で幸せな日々を過ごしたいと願っているでしょう。この世界に不幸になり

たいと願いながら生きている人はいません。教会に来て礼拝している人たちも、お寺や神社にお参りする人も、あるいは「私は神仏を信じない」と自認する人も、誰もが幸せな日々を願って生きていると思うのです。

そして、それぞれの幸福感に基づいて「ああ、今日は幸せな一日だった（善い一日だった）」とか「ああ、今日は不幸せな一日だった（悪い一日だった）」と感じて生きています。

しかし、私達の生活というものは、これから皆さんが経験されていく卒業後の生活は、決して毎日毎日が「ああ、今日は幸せな一日だった（善い一日だった）」と実感する日ばかりではないでしょう。雨の日が、しかも生活の根拠を押し流すような大雨の日が続くように感じる時もあるかもしれません。それは、毎日神に祈りつつ生きていてもそうです。

ただ信仰の力と言いますか、神から頂く賜物の中に、たとえどのような状況にあっても感謝して受け止める力というものがあると思います。これはなかなか信仰に入ったばかりの時は難しいかもしれませんが、一年、五年、何十年と信仰生活を積み上げていく中で体得して行く信仰の賜物だと思います。

そしてその中で気づかされて行くのは、「幸い」とは自分が欲するものを得られた時ではなく、神が欲しておられる生き方に自分を従わせる時に実感するものなのだと思います。

*

マタイ福音書5章にイエス様が教えて下さった「幸い」が記されていますが、そこでも私達人間が求める幸いとは異なる次元、神の側からの「幸い」が語られています。

- ①心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。
- ②悲しむ人々は、幸いである、その人たちは慰められる。
- ③柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ。
- ④義に飢え渴く人々は、幸いである、その人たちは満たされる。
- ⑤憐れみ深い人々は、幸いである、その人たちは憐れみを受ける。
- ⑥心の清い人々は、幸いである、その人たちは神を見る。
- ⑦平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。
- ⑧義のために迫害される人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。

私たちがここで気づくべきことは、この一番目から八番目までのすべての姿を、自らの生き方を通して表されたのが、他でもなく主イエス・キリストだということです。

すなわち、イエス様は、

- ①誰よりも徹底して心貧しく神により頼み、
- ②人間の罪の現実を痛く悲しまれ、
- ③徹底的に神と人の下に立つ柔和な方であり、
- ④神の義（神と人間との関係の回復）をひたすらに願い求められ、
- ⑤神の憐れみと赦しを実践され、

- ⑥ただただ神の前に清くあられ、
⑦神と人間、人間と人間との間に立って和解をなす働きに専心されました。
⑧そしてその結果、十字架という究極の苦しみ、迫害によって命をおとされました。

このイエス様の生き方にこそ、まことの「幸い」があるのです。天の国があり、慰めがあり、憐れみがあり、神を見、報いがあるのです。

そしてこの私たちも、この幸いに生きよ、と招かれているのです。

*

先ほど読んだ第一ペトロの手紙においても、その神の次元からの「幸い」、つまり神が私達に望んでおられる祝福の生き方というものが教示されているわけです。

11節にこうあります。「悪から遠ざかり、善を行い、平和を願って、これを追い求めよ」と。

これは誰もが共感することでしょう。しかし、なかなかそうはいかないことも人間の現実です。「平和を願って」とは言っても、一番近くに生きている家族との間ですら、それを作るのが困難な場合も少なくありません。

このペトロの手紙の当時、信徒たちは大変困難な人間関係におかされていたようです。独裁的な皇帝の支配、無慈悲な主人、そして神を侮るパートナーとの関係で苦しんでいたのです。

悪や侮辱ばかりが我が身に降りかかるそのような状況で、心折れそうになる信仰者たちがいたのです。彼らは毎日思っていたかもしれません。「ああ、今日も不幸せな一日だった（悪い一日だった）」と。

しかしそんな彼ら、そして私達に、この御言葉は前を向くように促しています。「幸せはあなたたちの生き方の中にある。御言葉の実践の中にあるのだ」と。

*

11節の「悪から遠ざかり、善を行い」（3:11）——この「善」という言葉は、先の「幸せな」と訳されているのと語源が同じです。「善」というのは、非常に能動的な行動の事柄でしょう。それと「幸せ」が根っここのところで結びついている、つまり、「幸せ」とは、ただ待つのではなく、こちらが能動的に生きていく中で味わうことなのですね。

繰り返しになりますが、「幸せ」はわたしたちの生き方の中にある。御言葉の実践の中にあるのです。

私たちの生活の日々が、幸いな日々であるか、善き日々であるかどうかは、私たち自身にかかってくるのです。何か目に見えない運命の力にもあそばされて、善き日であるか、悪い日であるか、いつも不安げに思いながら、うろろろして生きることではないのです。

皆さんには、そのような能動的に「幸い」を作り出していく生き方であって欲しいと願います。

*

節前後しますが、8-9節にこうあります。「皆心を一つに、同情しあい、兄弟を愛し、憐れみ深く、謙虚になりなさい。悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです」（3：8-9）。

この終わりのワンフレーズ「祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです」に注目ください。

私は本神学校の礼拝学の講義の時に、「もし説教に自信がなくて、説教が終わったあと意気消沈しそうになっても、最後の祝祷だけは魂を込めて唱えなさい。会衆は神の祝福を求めて礼拝しにくるのだから」と教えられました。

この9節の言葉を読んで、そのこと（もう30年近く前の教え）を思い出しました。そしてあらためて私は牧師として、神の祝福を人々のために祈るよう召されているのだ、と再確認しました。

そしてそれは決して牧師だけの召しではなく、すべてのキリスト者が、いやもっと言えばすべての人間が、その働き、つまり、他者のために神の祝福を祈る務めに召されているのではないかと思うのです。

*

創世記12章には「信仰の父」アブラハムが神に呼び出され、そして神によって新たな地へ派遣される場面が描かれています。神さまはこのようにおっしゃいました。「祝福の源となるように。・・・地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る。」（創世記12:2-3）このように派遣される人間は、「祝福」を持ってこの世に送り出されます。

God bless you!!——これは「あなたに神の祝福がありますように」という意味ですね。私たちは日本語で別れる時に「あなたに神の祝福がありますように」とはなかなか言いませんね。でも、英語で別れる時はよく「God bless you!!」「God bless you!!」と言います。これはとても良い習慣だと思います。他者のために祝福を祈りながら日々生きていくのです。

皆さんは祝福を分かち合うためにここから出ていきます。争いと悪が満ちるこの世界にあつて、悪に対して善をもって対峙し、侮辱に対して祝福をもって応えていくのです。そのような生き方の中に、私たちは「幸いなるかな」という上からの祝福を頂くのではないのでしょうか。

皆さんの上に神の祝福を祈ります。そしてその祝福を携えて、ここから出かけていき、それぞれの働きの現場で交わる一人一人に神の祝福を分かち合って歩んで行ってください。

終わりになりますが、私は今日ここに、日本バプテスト連盟の理事長として招かれております。日本全国、沖縄から北海道まで、全部で316の教会・伝道所が加盟するキリスト教団体です。そのすべての教会員の皆様のお気持ちも含めて、皆様にお祝い申し上げます。

そして、皆様のこれからの人生において、日本バプテスト連盟の教会が身近にあり、また生活の中でかけがえのない魂の拠り所となることを願っております。お祈りします。

【祈り】

主なる神様、この西南学院大学神学部で学ばれたお一人ひとりの人生が、あなたの祝福で護られ、またあなたが願っておられる幸いなる方向へ導かれますように。またその幸いなる歩みに触れる人々との豊かな関係の広がりやそれぞれの領域で喜び合い、神の国に生きる人々が増し加えられますように。平和の主イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン

2024年度 卒業予定者紹介

「これからのバプテスト教会 ～宗教、信仰、教会の未来～」

神学専攻科 奥田 悟



幼い頃から教会で育った私にとって、教会、キリスト教は家業の様なものと感じていました。どちらかというと、自分を縛り付けるものの様に思われていましたが、気が付くと自らのアイデンティティーの重要な部分を占めていることに思いを馳せるようになりました。人はなぜ、信仰を持つのか？信仰とは一体何か？人はなぜ、教会に行き、奉仕をし、献金をし、その生活を続けていくのか？青年期を迎え、様々な疑問に少しずつ聖書が答え始めました。キリスト教とは？キリスト教会とは？それをこの極東の地で行っていく意味とは？クリスチャンになったのは、小学6年の時ですが、そんな疑問の繰り返し、やがて自らに意味性を与え、整理を与えてくれるようになった頃、私は明確に「信じる」という事を自らの魂の問題として、主から受け取るようになったのだと思います。

そして、これからの教会を考える時、何を基軸に整理していくのか、と言った時、最も魅力的に感じられたのが「バプテストであること」という事です。魅力的、と言っても、それが完成された、強固な身を寄せやすい代物に見えた、という意味ではありません。むしろ少なくとも「日本のバプテスト」という意味では甚だ未完成であり、特に近年は混乱というより混迷のさ中にあると言ってもよい状態にあって、「信仰者の教会」「信仰者のバプテスマ」は新たな可能性を示していると考えているのです。

前年度は学部4年として「バプテスト教会のバプテスマ理解～自覚的信仰の内実」と題して拙論を卒業論文として歴史的に考究させていただきました。今年の最終学年では「信仰の内省化」というテーマに実践神学や教会形成の角度で考えていきたいと準備しています。個人の信仰の事柄も、教会についても、比較的外面的な事柄をたくさん私たちは議論してきました。その上で、宗教的個人の内面性を今後どのように見つめる事ができるのか、一人一人の信仰がより大切にされていくには、どんな事ができるのか、固定概念や世俗化された事柄にとらわれず、大いに主のみ声を「実際に」聞く信仰の場を求め、探し、扉をたたきたいと願うのです。

日本は落ち込んでいくだろう、教会も、と多くの人が思っているかもしれませんが、しかし、キリスト教は逆であります。世の中と。ただ逆なのではなく、立っている地平が逆なのです。これから時代が始まるかもしれませんが。キリスト教はそういう本物の宗教ではなかったのでしょうか。ともに、主を仰ぎ見て多くの恵みと導きに応えさせていただきたいと願います。

「バプテスト」教会の牧師

大学院博士前期課程2年 吉田 睿濠



ハレルヤ！

今も生きて働かれておられる神さまを心から賛美します。最終学年となり、一年後に遣わされるだろう献身の場において主に期待して準備しております。現在考えている論文として、「日本バプテスト教会における牧師の働き」というテーマで書いております。神学生の学びを進める度、そして研修教会にて貴重な実践的経験をさせていただく度に、バプテスト教会の牧師像に疑問を抱いていました。牧師も教会員の一人である、といったバプテスト教会の精神を前に今日の時代においてバプテスト教会の牧師の働きとは一体如何なるものだろうかといったものです。現在の日本バプテスト連盟の教会・伝道所には無牧の共同体がいくつも存在しますが、現に他教派に比べて無牧であることに対して危機感を持つことなく、むしろ無牧状態も一つの「良し」として受け止めている教会もあります。礼拝説教や礼典執行も必ずしも牧師しかできないという決まりはありません。牧師も教会員も本当の意味で相互牧会に努めることのできる教会は素晴らしい教会だと思う反面、バプテスト教会において牧師がいる意味は何であろうか、といった牧師存在意義について改めて深く考える必要があると思いました。現に無牧教会があるとは言いつつも、やはり多くの教会は招聘委員会をたて、牧師を求めています。そういった状況を見ると、教会は何かしらの理由を持って牧師を必要としていることは間違いないと感じます。

私は一つの教会にとって必要となる牧師の働きができることを願っております。当然のようなことを言っているようですが、牧師の働きが「教会」という組織を守るため（もちろんこれも非常に重要なことです）だけでなく、その教会の方々と共に信仰を告白し、神の宣教をする教会となるために共に悩み、共に励まし合い、そして誰かにとって教会があって良かった、と言われるような愛に満ち溢れた教会になることのために全力を注ぐ牧師となっていきたいと願っております。特にバプテスト教会の牧師として、共に教会で生きる時、私たちが何を持ってバプテスト信仰を持っているのか、といったアイデンティティを再度確認しながら、神さまが「バプテスト教会」に与えられた恵み、そしてこれからも注がれ続ける主の恵みがどれほど豊かであるのかを日々共に発見しながら生きていきたいと心から思うのです。

諸教会の皆さまの信仰、希望、愛とが主にあって豊かなものとなりますように。

2023 年度 卒業生紹介

【大学院神学研究科博士前期課程】 1名

【神学部キリスト教人文学コース】 10名

【神学部神学コース】 1名

●奥田 悟

①推薦教会 東京北教会

②卒業論文

「バプテスト教会のバプテスマ理解
～自覚的信仰の内実より～」

③担当教員 金丸英子教授

④進路 神学専攻科進学



2023年度 西南学院大学神学部及び大学院神学研究科卒業礼拝 2024年3月19日 西南学院大学チャペル

2024 年度 入学生

【学部】

1年次（キリスト教人文学コース） 8名

【選科】 1名

大野 学 （推薦教会：釧路キリスト教会）

【専攻科】 1名

奥田 悟 （推薦教会：東京北教会）

【リカレント生】 1名

横濱 峰二子 （推薦教会：札幌バプテスト教会）

《 2024 年度 神学部・大学院神学研究科 学生人数表 》

学部	専攻科	4年次	3年次	2年次	1年次	計
神学コース		1	2			3
人文学コース		13	10	11	8	42
選 科		1	1			2
専 攻 科	1					1
合 計		16	12	10	10	48

*カリキュラム上、選科1年は学部3年次、2年は4年次、3年は専攻科にあたる

大学院	博士後期 3年	博士後期 2年	博士後期 1年	博士前期 2年	博士前期 1年	計
合 計		1		3		4

研究生・研修生 ・リカレント生						1
--------------------	--	--	--	--	--	---

総 合 計						53
--------------	--	--	--	--	--	----

卒業予定者の招聘について

卒業予定者の赴任先については、原則として、神学部長が日本バプテスト連盟常務理事と協議の上、その紹介にあっています。招聘についてのお問い合わせは、直接下記にご連絡ください。なお神学生が神学の学びに集中できるよう、お問い合わせは卒業年度に入ってからお願い致します。

【連絡先】神学部長 才藤 千津子

住 所：〒814-8511

福岡市早良区西新 6-2-92

西南学院大学 学術研究所

メール：c-saito@seinan-gu.ac.jp

『教会教義学』への最高の案内
『カール・バルト《教会教義学》の世界』

寺園喜基 著／新教出版社 2023 年
神学部元教授 片山 寛

カール・バルトの『教会教義学』、このキリスト教神学の歴史に燦然と輝く名著は、神学を少しでも学んだ者ならば、いつかその全体を読みたいと、畏敬の念を抱きつつ憧れたことのある書物に違いない。しかしそれを阻むのは、第一にその分量である。何しろドイツ語原書では 13 巻 9000 頁以上にもなる膨大な書物であり（日本語訳では 36 巻）、しかも内容の密度が高いので辞書や事典で調べながら読むと、1 頁 2 時間は充分かかる。つまり単純計算すると、勤勉でしかも暇のある読者でも、全巻読破には 6 年もの歳月がかかる書物なのである。いきおい私たちは、原著の索引巻 Registerband などで必要な箇所を調べてそこだけを読み、あとはうやうやしく本棚に戻して感謝するだけに終わってしまう。何を隠そう、私もまたその一人である。こんな大著を 36 年間営々と書き続けたカール・バルト先生はほんとうに偉大だが、その偉大さがここではかえって私たちをこの名著から遠ざける原因になっているのである。

このたび、寺園喜基先生の著された『カール・バルト《教会教義学》の世界』は、そのような私たちのために、K D（教会教義学）を懇切に要約して下さった入門書である。叙述はていねいであり、そっけないと思えるほど無駄がない。自分がこれまでまだ読んだことのない諸巻にはどういうことが書かれているのかを調べる地図にもなるし、自分の読んだ部分が K D の全体構造の中にどう位置づけられるべきかを確認する資料にもなる。つまり要するに、この本は『教会教義学』への最高の案内書なのである。

個人的には、まだ私が神学部の学生だった頃に、九州大学の教授だった寺園先生が毎週干隈の神学校で下さった「教義学」の授業（あの同じ教室にはいつも天野有先生の姿もあった）を思い起こさせてくれる。あのときは確か「神論」の一部であったが、私は自分が何を学んでいるのかがよくわからず、時に反抗的な質問をして寺園先生を内心困らせていたかもしれない。先生はしかし、およそ何かに困るといような風はなく、常に春風駘蕩と応じられた。

この本の中で私が特にお勧めしたいのは、163 頁以下の「和解論」の部分である。ここではバルトを読む楽しさのようなものまでが書き表されている。その楽しさとは結局、バルトの言っていることが彼の神学の全体構造に結びつくことを発見することなのである。それはおそらく、寺園先生が若い頃にドイツ（ボン大学）留学で博士論文を書き、帰国後に出版された最初の御著書が「和解論」を扱った『カール・バルトのキリスト論研究』（創文社 1974）であるのと結びついているに違いない。若い時代の真剣な読書にまさるものはないのである。

新約聖書の学術的日本語訳の決定版
『新約聖書 改訂新版』

新約聖書翻訳委員会 訳／岩波書店 2023 年
神学部教授 須藤伊知郎

本書は 1995～96 年に 5 分冊で発行され、2004 年に合本が刊行された、いわゆる『岩波版新約聖書』の改訂新版である。この『岩波版』には、(1) 原典への忠実さ、(2) 内容理解への補助手段（傍注、補注）、(3) 訳者名の明示、(4) 翻訳の不偏性（初版「はしがき」より）といった顕著な特長があり、専門家はもとより、キリスト者であるとないとを問わず、自己の前理解をいったん脇に置いて新約諸文書のメッセージと真剣に向き合い、対話しようとする読者たちに広く受け入れられ、支持されてきた。初版から四半世紀余りが過ぎ、新約学および関連領域の研究が進み、底本のネストレーアラーント校訂ギリシア語新約聖書は 28 版（2012 年）が出て、日本語の語感にも変化が生じていることから、改訂が行われることとなった（「改訂新版への序」参照）。ここでは紙幅の関係で二つに限って新版で改められた箇所を取り上げたい。



まず、初版の「十字架」に替わって「杭殺柱」という訳語が採用されたことが目立っている。この訳語は、現代人が日本語で「十字架」という言葉を聞いて思い浮かべる「どこか崇高な美しさ」とはまったく異なる、原語の *stauros* が当時の読者に喚起したであろう「おぞましくも呪わしい姿」を伝えるために選ばれている（佐藤 研「なぜ十字架ではなく「杭殺柱」か」岩波書店『図書』2024 年 1 月号）。パウロはこの「杭殺柱」「につけられたままのキリスト」を宣べ伝えたのであり（1 コリ 1:23; 2:2; ガラ 3:1、もっともこれらパウロ書簡担当の青野太潮訳は「十字架」、マルコはこの「杭殺刑」に極まるイエスの生を福音書に描いたのである。

もう一箇所挙げると、ロマ 3:22 では研究状況の変化に応じて傍注が改訂されている。初版では「原文は「イエス・キリストの信仰」。この「の」を主格的にとって「イエスのもっていた信仰」とするか、対格的にとって「イエス・キリストへの（に対する）信仰」とするかは論争されている。数の上では後者が圧倒的に優勢である。」となっていた。新版では最後の一文が「数の上では前者が優勢か。」と改訂された。読者は自らの判断でこの論争に参加するよう促され、聖書本文との対話へと導かれる。

文語訳が今も参照されているように、この『新約聖書 改訂新版』も少なくとも今後 100 年は参照される、新約聖書の学術的日本語訳の決定版となるであろう。

— 2025 年度 西南学院大学神学部入試案内 —

【1 年次一般入学（英語 4 技能利用型を含む）】

○出願期間：2025 年 1 月 6 日（月）～1 月 21 日（火） ○試験日：2025 年 2 月 5 日（水）及び 2 月 8 日（土）

1. 神学（献身者）コース（キリスト教会信徒歴* 1 年以上）
2. キリスト教人文科学（一般学生）コース（信徒歴は問いません）

【1 年次独自指定校推薦入学】

○出願期間：2024 年 11 月 1 日（金）～11 月 8 日（金） ○試験日：2024 年 11 月 23 日（土・祝）

※キリスト教学校教育同盟加盟の高等学校長または日本バプテスト連盟加盟教会牧師からの推薦を受けた者

【1 年次総合型選抜入学】

○出願期間：2024 年 9 月 17 日（火）～9 月 25 日（水） ○試験日：2024 年 10 月 19 日（土）

※神学部を第一志望とし、入学してキリスト教と聖書を学ぶことを強く希望する者

※高等学校第 3 学年 1 学期（2 学期制の場合は第 3 学年前期）までの全体の評定平均値が 3.8 以上の者

【2 年次転・編入学】

○出願期間：2024 年 10 月 4 日（金）～10 月 11 日（金） ○試験日：2024 年 11 月 2 日（土）

※神学（献身者）コースはキリスト教会信徒歴* 2 年以上を有する者

※大学第 1 学年次修了者（32 単位以上修得または修得見込）、短期大学または高等専門学校卒業者（見込含む）、文部科学大臣の定める専修学校（専門課程）を修了（見込含む）し大学入学資格を有する者

【3 年次転・編入学（学士入学含む）・選科・専攻科】

○出願期間：2024 年 10 月 4 日（金）～10 月 11 日（金） ○試験日：2024 年 11 月 2 日（土）

1. 3 年次転・編入学（学士入学含む）

※神学（献身者）コースはキリスト教会信徒歴* 2 年以上を有する者

※大学第 2 学年次修了者（62 単位以上修得または修得見込）、短期大学または高等専門学校卒業者（見込含む）、文部科学大臣の定める専修学校（専門課程）を修了（見込含む）し大学入学資格を有する者、学士号を取得している者（見込含む）

2. 選科生入学 高等学校卒業以上で 22 歳以上の献身者（バプテスト教会信徒歴* 2 年以上）
3. 専攻科入学 大学神学部卒業（見込含む）の献身者（キリスト教会信徒歴* 4 年以上）

【神学部研修生（聴講生）】

キリスト教宣教の伝道者養成のため、主として社会人を対象とした研修生制度（詳細は教務課（092-823-3305）へお問い合わせください）

【神学部リカレント生（聴講生）】

2024 年度から始まった制度です。詳細は、p. 11「神学部リカレント生のご案内」をご覧ください。

*「信徒歴」とは推薦教会における信仰生活を指します。なお、これらの年限は「日本バプテスト連盟全国壮年会連合奨学金制度に関する規程」のものとは必ずしも一致しておりませんので、お気を付け下さい。

※神学コース志願者は、出願時に①牧師・伝道者としての召命・献身決意書、②所属教会の総会決議に基づく推薦書（伝道所の場合、母教会と伝道所の推薦書）、③所属教会牧師の推薦書（伝道所の場合、母教会と伝道所の推薦書）、④履歴書が必要となります。出願前に必ずキリスト教活動支援課（TEL 092-823-3336）までお問い合わせください。

※外国人留学生入学の制度もあります。お早めにお問い合わせください。

◎神学部入試に関するお問い合わせ*****

入試課 TEL：092-823-3366 FAX：092-823-3388

— 2025 年度 西南学院大学大学院神学研究科 神学専攻博士前期課程及び博士後期課程入試案内 —

【秋期（博士前期課程）】

一般・外国人等（国内居住者）及び社会人

○出願期間：2024 年 7 月 1 日（月）～7 月 12 日（金） ○試験日：2024 年 8 月 31 日（土）

【春期（博士前期課程）】

1. 一般・外国人等（国内居住者）及び社会人

○出願期間：2025 年 1 月 6 日（月）～1 月 16 日（木） ○試験日：2025 年 2 月 22 日（土）

2. 外国人等（国外居住者）

○出願期間：2024 年 10 月 1 日（火）～11 月 5 日（火） ○試験日：2025 年 2 月 22 日（土）

【春期（博士後期課程）】

1. 一般・外国人等（国内居住者）及び社会人

○出願期間：2025 年 1 月 6 日（月）～1 月 16 日（木） ○試験日：2025 年 2 月 21 日（金）

2. 外国人等（国外居住者）

○出願期間：2024 年 10 月 1 日（火）～11 月 5 日（火） ○試験日：2025 年 2 月 21 日（金）

◎大学院入試に関するお問い合わせ*****

大学院課 TEL：092-823-3368 FAX：092-823-3348

2023年度 開講科目表

【神学部神学科】

科 目	担 当 者
キリスト教神学への招待A	踊 真一郎講師
キリスト教神学への招待B	コーディネーター日原広志教授
旧約概論A/B	日原広志教授
新約概論A/B	濱野道雄教授
キリスト教史概論A/B	G. ロドリゲス准教授
組織神学概論A/B	濱野道雄教授
実践神学概論A	才藤千津子教授
実践神学概論B	濱野道雄教授
ヘブライ語I・II	日原広志教授
ギリシア語I・II	石橋誠一講師
外書講読A/B	ファン ナムドク教授
外書講読C/D	G. ロドリゲス准教授
旧約釈義A/B	日原広志教授
旧約神学A/B	藤方玲衣講師
旧約原典A/B	藤方玲衣講師
新約釈義A/B	須藤伊知郎教授
新約神学C/D	須藤伊知郎教授
新約原典A/B	須藤伊知郎教授
教会史A/B	金丸英子教授
教理史A/B	金丸英子教授
日本キリスト教史A/B	安高啓明講師
バプテスト史A/B	金丸英子教授
教義学C/D	ファン ナムドク教授
キリスト教倫理学A/B	コーディネーター濱野道雄教授
フェミニスト神学	コーディネーター日原広志教授
礼拝学B	越川弘英講師
牧会学A/B	才藤千津子教授
宣教学A/B	ファン ナムドク教授
キリスト教教育学A/B	中條智子講師
教会音楽A/B	麦野達一講師
実践神学A	コーディネーター濱野道雄教授
実践神学B	溝上哲朗講師
キリスト教社会福祉論	滝口 真講師
総合人間学A/B	G. ロドリゲス准教授
教会音楽研究A/B	福田のぞみ講師
教会音楽研究C/D	福田のぞみ講師
特殊講義(1)	コーディネーター濱野道雄教授
特殊講義(3)	梶井義郎講師
演習A/B(1)	才藤千津子教授
演習A/B(2)	日原広志教授
宗教学A/B	大坪哲也講師
英会話A/B	M. クープ講師
宗教心理学A/B	才藤千津子教授

カウンセリングA	才藤千津子教授
西南学院史(1)	コーディネーター北垣徹教授
宗教科教育法	野口 真講師
宗教科指導法I・II	才藤千津子教授

【神学専攻科】

科 目	担 当 者
旧約学特殊講義A/B	日原広志教授
新約学特殊講義A/B	須藤伊知郎教授
聖書学特殊講義A/B	藤方玲衣講師
聖書学特殊講義C/D	須藤伊知郎教授
旧約原典研究A/B	藤方玲衣講師
新約原典研究A/B	須藤伊知郎教授
教会史特殊講義A/B	金丸英子教授
教理史特殊講義A/B	金丸英子教授
バプテスト史特殊講義A/B	金丸英子教授
キリスト教社会倫理A/B	コーディネーター濱野道雄教授
牧会学特殊講義A/B	才藤千津子教授
牧会学実習	才藤千津子教授
牧会心理学A/B	才藤千津子教授
説教学演習	濱野道雄教授
教会形成論特殊講義A/B	濱野道雄教授
キリスト教教育学特殊講義A/B	中條智子講師
教会音楽特殊講義A/B	麦野達一講師
教会音楽特殊研究A/B	福田のぞみ講師
特殊講義(1)	G. ロドリゲス准教授
特殊講義(2)	須藤伊知郎教授
特殊講義(3)	コーディネーター濱野道雄教授
特殊講義(4)	溝上哲朗講師
特殊講義(5)	ファン ナムドク教授
特殊講義(6)	ファン ナムドク教授
特殊講義(7)	梶井義郎講師
演習A/B	才藤千津子教授

【大学院神学研究科】

科 目	担 当 者
新約学特論I・II	須藤伊知郎教授
説教学特論	濱野道雄教授
キリスト教音楽特論I・II	麦野達一講師
キリスト教教育学特論I・II	野口 真講師
バプテスト史特論I・II	金丸英子教授
キリスト教神学特論	金丸英子教授
神学研究方法論	金丸英子教授
神学演習	濱野道雄教授、 才藤千津子教授
組織神学特論I・II	ファン ナムドク教授
実践神学特論I・II	濱野道雄教授
神学研究指導	須藤伊知郎教授

2023年度 神学部報告

2023年

- 4月3日 大学入学式、神学部始業礼拝（大学チャペル）、開講講演（藤方玲衣専任講師、大学チャペル）、大学院ガイダンス
- 4-8日 新入生オリエンテーション
- 10日 前期授業開始
- 5月8日 ジョナサン・マゴネット先生（レオ・ベックコレッジ名誉教授）ロングチャペル
- 13日 神学部春の親睦会（糸島バーベキューのろ高原）
- 17日 神学部卒論、修論 構想発表会
- 6月13-14日 日本バプテスト連盟2023年度第1回理事会（オンライン・才藤神学部長陪席）
- 23日 神学校週間を覚える集い（福岡地方連合壮年会・神学部学生会との共催）オンライン
- 25-7月2日 神学校週間
- 30日 神学教育に関する委員会（西南学院大学、神学部長出席 濱野教授陪席）
- 7月3日 神学部ロングチャペル マウン・マウン・ヤイン先生（ミャンマーバプテスト連盟前理事長、ミャンマー神学校元副校長）
- 22日 前期授業終了
- 24-8月1日 前期試験
- 8月2日-9月21日 夏期休暇
- 5-6日 オープンキャンパス
- 15-17日 東アジア平和センター・福岡主催アジア青年平和学校（韓国・済州島）
- 25-26日 第58回全国壮年大会（於東京・大井バプテスト教会、濱野教授講演）
- 9月1日 神学部2023年度ファカルティ・デベロップメント（FD）、ファカルティ懇談会
- 22日 後期授業開始
- 27日 前期卒業式
- 27日 神学部 人文学コース生向け 卒業生による就職説明会
- 10月4日 神学部卒論、修論 中間発表会
- 10-11日 連盟第2回理事会（オンライン・神学部長陪席）
- 13日 伝道者養成に関する委員会（オンライン）
- 16日 神学部ミッションデー 講師：佐々木和之先生（日本バプテスト連盟国際ミッション・ボランティア・ルワンダ）

- 19-21日 第51回女性連合総会・大会（西南学院大学）（金丸教授・才藤教授講演）
- 28日 総合型入試

- 11月1日 神学教育協議会（西南学院大学）
- 3日 2、3年転編入、学士入学、選科、専攻科生入試
- 4日 神学部秋の親睦会（神学寮）
- 9日 総合型選抜入試
- 9-12日 大学祭
- 23日 学校推薦型選抜入試（指定校推薦他）
- 27日 神学部ロングチャペル（説教者：ホン・インシク先生）（韓国基督教教会協議会人権センター理事長）
- 12月9日 神学部クリスマス（説教者：長住バプテスト教会 中條智子牧師）（神学寮）
- 21日 大学クリスマス・キャンドルサービス
- 25日 キリスト降誕祭（全学休講）
- 26日-2024年1月5日 冬期休暇

2024年

- 1月9日 授業再開
- 10日 学部卒業論文提出締切
- 22日 修士論文提出締切
- 22日 後期授業終了
- 23-31日 後期試験
- 31日 神学部 卒論、修論 最終発表会
- 2月2-3日 第69回日本バプテスト連盟定期総会（オンライン）
- 5-8日 大学入学試験（5日は神学部一般入学試験）
- 17日 福岡地方連合協力伝道会議「どげんすつと？宣教協力」神学部共催（西南学院大学百年館）
- 20-21日 連盟第3回理事会（オンライン・才藤神学部長陪席）
- 23-24日 大学院入試（修士・博士）
- 28-3月2日 新任牧師主事研修会（宣教研究所）
- 3月1日 神学部教授会（卒業判定）
- 10-11日 神学校入学前研修会
- 18日 実践神学担当者懇談会・近隣教会懇談会・助言者の会
- 18-20日 日本クリスチャン・アカデミー主催、神学生交流プログラム（京都セミナーハウス）
- 19日 神学部卒業礼拝（説教者：日本バプテスト連盟理事長吉田真司牧師）
- 21日 大学卒業礼拝・卒業式

<神学部報告より>

神学部ミッションデーについて

2023年10月16日(月)、佐々木和之先生(ルワンダ・プロテスタント人文社会科学大学准教授、日本バプテスト連盟国際ミッション・ボランティア)を講師にお迎えして、ミッションデーを開催しました。今年は、午前中の礼拝の後、初めての試みとして午後には、佐々木先生に「あなた VS. わたし」から「私たち VS. 問題」にむけて一対人葛藤の解決過程を体験するワークショップ」を行っていただきました。参加者は約20名でした。

秋の神学部ロングチャペルについて

2023年11月27日(月)韓国からホン・インシク先生(韓国基督教教会協議会人権センター理事長、セギル基督教社会文化院院長、ソウル、セギル教会牧師)を講師にお迎えしてロングチャペルを行いました。ホン・インシク先生は、アルゼンチンやキューバで宣教学・組織神学を教えた経験をお持ちで、当日は先生の豊かなご経験をもとに「解放の神学」についてお話しをしていただきました。

アジア青年平和学校について

—Shalom! Salam! Shanti!—

ヘブライ語でシャローム(Shalom)、アラビア語でサラーム(Salam)、ヒンディー語でシャンティ(Shanti)はすべて平和、平安を意味する言葉である。今日の世界は、シャローム、サラーム、シャンティが切望される時代である。平和を望んでいるが、戦争のニュースばかりが聞こえてくる。私たちはどうすれば平和を実現し、共に平和の中で暮らせるのだろうか。平和は言葉ではなく、実践してこそ成し遂げられる。だから、イエス様は「平和を造る人々は、幸いである」と言われた(マタイによる福音書5章9節)。

2019年に設立された東アジア平和センター・福岡の主なプログラムの一つは、平和のために実践する「アジア青年平和学校」である。2019年に第1回「青年平和学校」が沖縄で「Peace for Life」というテーマで日本、中国、韓国の学生が参加し、2023年に開催された第2回は「Peace Together」というテーマで韓国の済州島(チェジュ島)で、日本、香港、韓国の学生が参加した。この時から「青年平和学校」は「アジア青年平和学校」に名称が変わった。今年2024年度に開催される第3回は、「Song of Peace from the Demilitarized Zone」というテーマで、韓国の南北の国境の町、鐵原(チョルウォン)にある「国境線平和学校」で朝鮮半島の歴史とアジアの平和の課題について学び、実践できるように準備している。

平和運動は、地理的な境界と国境を越えた民が中心でなければならない。だから「アジア青年平和学校」は、民としてのアジアの青年たちが平和を実践するためにアジアの現場で出会い、連帯する教育と実践の場である。2024年8月12日から15日まで行われる「アジア青年平和学校」のために、西南学院大学神学部は参加者に奨学金を提供し、平和運動に積極的に支援及び協力をしている。シャローム、サラーム、シャンティは神学を学びながら真理を探求する学生の実践を通じて実現されるだろう。

神学部リカレント生のご案内

神学部では、本年度から、卒業後教育の一環として、次期赴任に向けて待機されている牧師、また牧会する教会を離れての研修期間や休暇(サバティカル)をとられる牧師などを対象として、「リカレント生」制度を開始しました。リカレント生は大学の制度上は聴講生です。現場での貴重な経験を基にして、神学部や大学院神学研究科で学び直しながら、ご自分の牧会を振り返ったり、学びのリフレッシュの時を持ちたりしていただくと幸いです。詳細は、神学部長までお尋ねください。(メール: c-saito@seinan-gu.ac.jp)

神学部出張公開講演のご案内

かねてより神学部では、全国の「地方連合」枠で、年2回を目途に出張公開講演を行ってまいりました。今年度は、日原広志教授(旧約聖書学)とヒラルド・ロドリゲス准教授(宗教社会学)の二人の教員が出張講演を担当いたしますので、ぜひお申込みくださいますようお願い申し上げます。

講演者の交通費・宿泊費はすべて当方で負担いたします。また、講演料は不要です(但し、当該講演の前後に設定された別枠での御奉仕—例えば礼拝説教奉仕等—についてはこの限りではありません)。なお、zoomなどインターネットを利用して講演会を実施することもできます。

神学部では、この出張公開講演が全国諸教会の皆さまと神学部とを結ぶ架け橋の一つとなることを願っております。貴地方連合がこの機会を「将来伝道者になる人々」と神学部の出会いの場としてもご利用くださいますよう、ご案内申し上げます。

お申し込みの際は、私どもまで、ご希望の時期・主題・講師等を具体的にお伝えください。今年度、日原教授とロドリゲス准教授がご提供できる講演のテーマとしては、たとえば以下のようなものがあります:「苦難の僕の詩—ヘブライ語聖書本文の揺れに聴く—」「グローバル社会における宗教の現状と教会の諸課題」。

ご連絡は、神学部長宛てメール(c-saito@seinan-gu.ac.jp) 件名=「出張公開講演の件」にて、お願いいたします。(なお、できるだけご希望に沿うよう努めますが、組み合わせ次第ではそうならない場合もありますことを予めご了承ください。)

在 主 神学部長 才藤千津子

2023 年度 研究・活動・消息 (就任順)

須藤 伊知郎 教授

◆執筆

- ・「まことに、この人は神の子だった—2023年4月24日神学部チャペル説教から」神学部学生会誌『道』48号 (2023.10.15) 8-9頁 (<https://www.seinan-gu.ac.jp/rel/Michi2023>)
- ・「ご挨拶」『西南学院大学管弦楽団第61回記念定期演奏会プログラム』西南学院大学管弦楽団 (2023.12.28)
- ・「怒り×史的イエス」『SEINAN Spirit』2024 Spring No. 228 (<http://www.seinan-gu.ac.jp/spirit/228/myanswer/>)

◆論文

「西南学院の使命と平和構築」下園知弥・山本恵梨編『戦争と学院：戦時下を生き抜いた福岡のキリスト教主義学校』西南学院大学博物館研究叢書、花乱社 (2023.6.3) 73-76頁

◆講演

- ・北海道地方連合第14回信徒セミナー「体験！神学校 ～じっくり学ぶ新約聖書～ スーパーマン？敗北者？—いやしと十字架のイエス様」 (神学部出張公開講演として 2023.7.29)

◆説教

- ・神学部チャペル (2023.4.24; 2024.1.22)
- ・苫小牧教会主日礼拝説教 (2023.7.30)
- ・福岡西部教会主日礼拝説教 (2024.3.24)

◆消息

- ・西南学院理事 (～2023.6)
- ・西南学院評議員
- ・情報処理センター委員
- ・西南学院管弦楽団部長
- ・日本新約学会理事
- ・西日本新約聖書学会理事
- ・日本聖書学研究所所員
- ・日本基督教学会理事・学会賞選考委員長 (2023.9～)
- ・NTJ新約聖書注解シリーズ監修 (福音書行伝グループリーダー)
- ・安全保障関連法の廃止を求める西南学院有志の会 (<http://seinan-gu.jimdo.com>) 呼びかけ人
- ・福岡西部バプテスト教会員

金丸 英子 教授

◆執筆

- ・The Founding of the Japan Baptist Women's Missionary Union: Akiko Matsumura's Passion for Equal Status in God's Mission (Baptists and Gender for Papers for the Ninth International Conference on Baptist Studies 9, Mercer University Press, 2023.11.7)
- ・「私のバプテスト研究」関東学院大学キリスト教と文化研究所『バプテストの歴史と思想研究』(2023.3)
- ・「広島教会資料の価値と力」(日本バプテスト連盟恵泉バプテスト教会社会部通信 347号、2023.8.20)

◆研究ノート

- ・「バプテストにおけるバルト神学の影響について：礼典をスクラメンタルに解釈し直す試み」 (神学論集、第81巻1号、2024.3)
- ・「日本バプテスト連盟広島教会資料の価値と力」(神学論集、第81巻1号、2024.3)

◆研修会

- ・沖縄バプテスト連盟信徒研修会講師 (2023.11.5、那覇バプテスト教会)
- ・沖縄バプテスト連盟牧師会研修会講師 (2023.11.6、沖縄バプテスト連盟ビル)

◆講演会

- ・「バプテストにおけるバルト神学の影響について—礼典を「スクラメンタル」に解釈し直す—」 (寺園喜基先生出版記念会シンポジスト、2023.9.16、西南学院百年館)
- ・「わたしたちは・神の同労者・である—女性連合のこれからに思いを馳せて— (2023.10.19-20、日本バプテスト女性連合50周年女大会主題講演、西南学院大学チャペル)

◆説教

- ・神学部チャペル説教 (於大学チャペル、2023.4.10)
- ・福岡バプテスト教会主日礼拝 (於福岡バプテスト教会、2023.9.24)

◆消息

- ・大学院神学研究科科长
- ・大学院委員会委員
- ・大学院FD委員会委員
- ・大学図書館委員
- ・西南学院史委員会委員
- ・一麦奨学金委員会委員
- ・大学神学寮寮監
- ・西南学院大学寮運営委員会委員
- ・大学全学点検評価委員会委員
- ・西南学院資料センター運営委員会委員
- ・西南学院資料センターバプテスト資料保存・運営委員会委員長
- ・西南学院資料センターアーカイヴズ編集委員会委員長
- ・関東学院大学キリスト教と文化研究所客員研究員
- ・Baptist World Alliance Commission on Baptist Heritage and Identity member
- ・Baptist World Alliance Commission on Baptist Doctrine and Christian Unity member,
- ・福岡バプテスト教会員
- ・日本基督教学会会員
- ・日本キリスト教史学会会員
- ・アメリカ学会会員
- ・American Association of Religion 会員
- ・American Society of Church History 会員
- ・Baptist History and Heritage 会員
- ・Baptist Historical Society 会員
- ・Commission on Baptist Heritage and Identity, Baptist World Alliance
- ・Commission on Baptist Doctrine and Christianity, Baptist World Alliance

目原 広志 教授

◆執筆

- ・「イエス・キリストの御名によって」神学部学生会誌『道』第48号 (2023.11)

◆翻訳

- ・ジョナサン・マゴネット「ダビデ王とテコアの知恵ある女 (サムエル記下14:4-20)」『西南学院大学神学論集』第81巻第1号 (2024.3) 55～67頁
- ・ジョナサン・マゴネット「二つの聖書の時間観—詩編90編における神学的ディベート—」『西南学院大学神学論集』第81巻第1号 (2024.3) 69～89頁

・ジョナサン・マゴネット「祈りの進化」(Jonathan Magonet, “The Evolution of a Prayer”) 大学チャペル講話当日配布資料 (2023. 6. 6)

◆講演・発題

・日本バプテスト連盟 2023 年度神学校入学前研修会主題講演「神学するとは」(Zoom による、2024. 3. 8)

◆説教

・福岡有田バプテスト教会 (2023. 8. 20)
・長住バプテスト教会 (2023. 6. 25)
・神学部チャペル (2023. 9. 25)
・神学校入学前研修会閉会礼拝 (2024. 3. 9)

◆消息

・日本旧約学会員
・日本基督教学会員 (九州支部会幹事)
・大学学科主任
・大学学術研究所委員
・大学論集編集委員
・大学聖書植物園管理運営委員
・大学一般教育委員
・大学院委員
・大学授業評価検討委員
・大学親交会委員
・福岡有田教会員

濱野 道雄 教授

◆執筆

・『『生きていて嬉しい』学院を、そして世界を』、『学生相談室報』、西南学院大学学生相談室 (2023. 10)
・『異なるものが、等しく、共に生きる』、『チャペル講話集』第 56 号、西南学院大学総務部キリスト教活動支援課 (2024. 3)

◆論文

・『『良いヤマトンチュ』の神学を求めて：加害者の依存脱却、そして神の民へ』、『富坂キリスト教センター紀要』、富坂キリスト教センター (2024. 3)

◆書評

・「青野太潮著『どう読むか、聖書の『難解な箇所』』、『西南学院大学神学部報』第 60 号、西南学院大学神学部 (2023. 6. 15)

◆講演・発題

・「死生論 ～キリスト教の視点から～」、メンタルケア・スペシャリスト養成講座 (於早良市民センター、2023. 4. 9)
・東京バプテスト神学校講義「宣教学：日本のキリスト教の現状とこれから」(2023. 6. 26～10. 2)
・「キリスト教の基礎とカルト問題」、福岡県高等学校公民科研究会総会、(於西南コミュニティーセンター、2023. 7. 7)
・「教会が元気になるには～にもかかわらず、新しい共同体を求めて～」、第 58 回日本バプテスト連盟全国壮年大会、(於大井バプテスト教会、2023. 8. 25)
・「李明生氏『開かれる教会～からふるなわたしたち～』への応答」、日本バプテスト連盟日韓・在日連帯特別委員会主催『『外国人住民基本法』の制定を求める全国リレー集会 2023』(於西南学院バプテスト教会、2023. 9. 21)
・「死生論 ～キリスト教の視点から～」、メンタルケア・スペシャリスト養成講座 (於九州大学西新プラザ、2023. 11. 26)
・「パレスチナ紛争の背景」、日本バプテスト連盟靖国問題特

別委員会主催「すべての暴力に反対する祈り会」(於 Web、2024. 1. 30)

◆説教

・西南学院大学チャペル (2023. 4. 13)
・日本バプテスト シオン山教会礼拝 (2023. 5. 7)
・平尾バプテスト教会 奥村献牧師就任・按手式 (2023. 6. 4)
・日本バプテスト シオン山教会礼拝 (2023. 6. 18)
・日本バプテスト シオン山教会礼拝 (2023. 7. 2)
・鳥栖キリスト教会礼拝 (2023. 7. 16)
・西南学院大学チャペル (2023. 10. 4)
・鳥栖キリスト教会礼拝 (2024. 1. 14)

◆消息

・西南学院大学 宗教部長 (2023. 4-2025. 3)
・西南学院大学 聖書植物園管理・運営委員会委員長
・鳥栖キリスト教会協力牧師
・日本バプテスト連盟 東日本大震災被災地支援委員会委員
・日本バプテスト連盟 神学教育に関する委員会委員
・日本バプテスト連盟 公害問題特別委員会協力委員
・日本バプテスト連盟 性差別問題特別委員会協力委員
・福岡地方バプテスト連合 社会委員会委員長 (2023. 5-2025. 3)
・東京バプテスト神学校 講師
・東京バプテスト神学校 新カリキュラム委員会委員
・日本基督教学会員
・日本基督教学会 九州支部幹事
・日本新約学会員
・日本宣教学会員
・日本実践神学会員
・公共哲学・公共宗教 (神学) 研究会員

才藤 千津子 教授

◆執筆

・「バプテスト誌」6 月号「神学校週間によせて」2023 年度神学校週間奨励「キリストに捕らえられているから」(2023. 6)
・エッセイ「境界を生きる」西南学院大学神学寮『道』49 号 (2023. 10)

◆論文

「周縁を生きる牧会者—20 世紀の牧会学教師たち」西南学院大学『神学論集』第 81 巻 1 号 (2023. 3. 31)

◆講演・発題

・発表 「『べてるの家』と日本の精神医療」キリスト教教育とカウンセリング研究会 (於西南学院大学、2023. 7. 21)
・発表 「キリスト教教育と学生支援」キリスト教教育とカウンセリング研究会 (於西南学院大学、2024. 3. 9)
・講演「変化の時代を生きる希望」第 50 回日本バプテスト女性連合信徒大会 (西南学院大学チャペル、2023. 10. 21)
・講演 2023 年度後期 西南コミュニティーカレッジ「幸せって何だろう？～ウエルビーイングな生き方を探求する～」第 4 回「キリスト教とウエルビーイング～『『幸せ』を問う』(2023. 12. 20)
・発題「近隣教会との神学部懇談会」「教会研修とハラスメント」(於西南学院百年館、2024. 3. 18)

◆説教・奨励

・2023 年度神学部始業礼拝奨励 (於大学チャペル、2023. 4. 3)
・日本バプテスト連盟緑の牧場教会就任感謝礼拝説教 (於緑の牧場教会、2023. 5. 14)
・日本バプテスト連盟平尾バプテスト教会・大名クロスガー

- デン主日礼拝説教 (2023. 7. 30, 9. 24)
- 日本バプテスト連盟筑紫野南教会主日礼拝説教 (2023. 12. 31)
- 日本バプテスト連盟福岡地方連合 2023 年度「どげんすつと？宣教協力」集会礼拝説教(於西南学院百年館、2024. 2. 17)
- 西南学院高等学校卒業礼拝講話 (於高校チャペル、2024. 2. 29)
- ◆その他
 - 博士学位申請論文審査委員・副査 論文提出者：高木政臣 論文題目：「回心の実践神学的研究—ルイス・R・ランボ—の研究方法を基にして」(2024. 2. 10)
- ◆消息
 - 神学部長 (2023. 4～現在)
 - 平尾バプテスト教会協力牧師 (2018. 5～現在)
 - 社会福祉法人久山療育園評議員 (2018. ～現在)
 - 社会福祉法人福岡いのちの電話スーパーバイザー (2018. 9～2024. 3. 31)
 - Pastoral Psychology 誌 編集委員 (2013. 7～現在)
 - 日本実践神学会運営委員 (2022. 4～現在)
 - 日本基督教学会会員
 - 日本キリスト教教育学会会員
 - 大学国際化推進委員
 - 大学点検評価委員
 - 大学教学マネジメント委員
 - 大学研究マネジメント委員
 - 大学全学入試委員
 - 大学院委員
 - 大学キャリアセンター委員
 - 大学博物館運営委員
 - 神学部一麦奨学金委員会委員
 - 日本バプテスト連盟 福岡地方連合「ハラスメント防止・啓発・情報窓口」担当

ヒラルド ロドリゲス 教授

- ◆随筆
 - 「16 世紀の一人の宣教師の声に耳を傾けて」『道』48 号 (2023. 10)
 - 「小さな行動でも善を選ぶ」『Seinan Spirit』No. 225, Summer 2023.
 - 高校 1.2 年生向け広報物、大学入試課 (2023. 03)
- ◆国内調査
 - キリスト教と日本宗教の宗教間対話の研究—Paul Swanson 先生に聞き取り調査 (長野県小布施町、2023. 8. 28-29)
 - キリスト教と日本宗教の宗教間対話の研究—和歌山県那智勝浦現場調査 (2023. 3. 13-15)
- ◆説教
 - 神学部チャペル説教 (2023. 5. 29)
 - 早良キリスト教会 (2023. 12. 3)
- ◆消息
 - 早良キリスト教会員
 - 大学学生主任
 - 大学学生相談室運営委員
 - 大学キャリアセンター委員
 - 大学保健委員
 - 大学『神学論集』編集委員
 - 日本基督教学会会員

- ・「宗教と社会」学会員
- ・国際宗教社会学会員

黄南徳 (ファン ナムドク) 教授

- ◆執筆
 - 研究ノート
 - ・「神學-出と向」(神学論集 第 81 卷 第 1 号、2024. 3)
 - ・「『共に、平和』」神学部学生会誌『道』第 48 号 (2023. 9)
- ◆講演・発題
 - ・「アジア平和構想: 東アジア平和センター・福岡の活動を中心に」(沖縄バプテスト連盟普天間バプテスト教会、2023. 5. 16)
 - ・第 2 回アジア青年平和学校閉会の辞 (韓国、2023. 8. 18)
 - ・第 2 回アジア青年平和学校の評価と展望 (日本キリスト教会福岡筑紫野教会、2023. 10. 1)
 - ・第 2 回アジア青年平和学校の評価と展望 (日本キリスト教会福岡城南教会の婦人会、2023. 10. 8)
 - ・アジア平和運動としての平和学校の意味 (日本キリスト教会福岡城南教会の壮年会、2023. 12. 17)
 - ・アジア平和運動の未来と課題: アジア青年平和学校の事例 (EAPHET、台湾、2024. 3. 11)
 - ・大学における平和教育の課題: アジア青年平和学校の事例 (Chang Jung Christian University、台湾、2024. 3. 13)
- ◆説教
 - ・神学部チャペル (2023. 7. 10)
 - ・大学チャペル (2023. 7. 19)
 - ・日本バプテスト連盟福岡国際キリスト教会糸島集会主日礼拝 (2023. 11. 26)
 - ・貞陵中央教会主日礼拝 (韓国、2024. 3. 3)
- ◆消息
 - ・大学国際センター委員 (2023. 4～2024. 3)
 - ・日本キリスト教会エキュメニカル宣教協力者
 - ・日本キリスト教会九州中会ヤスクニ問題特別委員会委員
 - ・日本キリスト教会九州中会青年部委員会委員
 - ・東アジア平和センター・福岡センター長
 - ・日韓反核平和連帯会員

藤方 玲衣 教授

- ◆講演・発題
 - ・2023 年度開講講演「神学にたざさわる喜び」(於大学チャペル、2023. 4. 3)
- ◆研修会・研修会
 - ・学部等横断提供講座 「国際的な視点から見る日本のジェンダー平等」第 4 回「ジェンダーの多様性と共生の視点から「聖書」を考える: クィア (変態) 神学の視座」(西南コミュニティーカレッジ、2023. 10. 27)
- ◆説教
 - ・大学チャペル講話「あなたの存在には喜びがある」(2023. 6. 7)
- ◆消息
 - ・大学言語教育センター運営委員
 - ・大学ラーニングサポートセンター運営委員
 - ・西南学院資料センターバプテスト資料保存・運営委員
 - ・日本旧約学会会員
 - ・日本聖書学研究所員
 - ・日本基督教学会会員

「叙勲」に対する見解

2023年12月6日

西南学院大学現神学部教授会一同

西南学院大学現神学部教授会一同は、「神学部の使命と目的」（2005、2006）および「西南学院創立百周年に当たっての平和宣言」（2016）に則り、「叙勲」制度に疑義を呈します。

勲章を「親授」ないし「伝達」され、天皇に「拝謁」する「叙勲」には執行根拠となる法律が存在せず、主権在民に「反する一切の…詔勅を排除する」と憲法前文にあるにもかかわらず、戦前の「勅令」等によって運営されている制度です。それは「天皇の国事行為として行われることとされ、天皇と国民を結ぶ役割を果たしている」（『栄典制度の在り方に関する懇談会報告書』内閣府、2001）ものです。

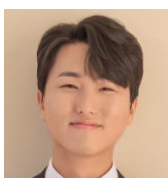
当見解は「叙勲」をめぐる多様な議論を妨げるものではありません。神学部では天皇制をめぐる議論をこれまで行ってきたように、これからも深めて参ります。だからこそ現神学部教授会一同は、多様性を封じ込めてきた「天皇の名による侵略戦争によって傷つき、殺された人々への『加害責任』を心に刻み、民族や国境を越えて、戦争による負傷者や遺族たちの怒り、苦しみ、悲しみを受け止め」（「西南学院創立百周年に当たっての平和宣言」）、多様な「国籍、人種、出自、性別等の違いによる差別をせず、世界に開かれた教育・研究共同体の形成を目指す」（「神学部の使命と目的」）ゆえに、天皇に深くかかわる形で国が市民を格付けする「叙勲」に賛成することは出来ません。

「なぜなら、他ならぬ私たちの市民共同体は天に存在しているからです。」（フィリピの信徒への手紙3章20節前半、神学部教授会訳）

2024年度 西南神学生だより

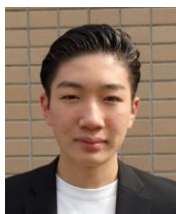
新年度が始まり、新たな仲間と共に新しい歩みがスタートしました。私たちを学び舎に送り出し、また祈りや様々な支援でもって支えてくださっている全国の教会・伝道所の皆様には、心から感謝申し上げます。今年度の神学部・大学院神学研究科の神学生を紹介します。私たちのことを少しでも身近に感じていただければと思います。

なお、神学部学生会へのお問合せは s26sa001@seinan-gakuin.jp<会長アドレス>までお願いします。



大学院博士前期2年 吉田 睿濫
推薦教会：松本福音村バプテスト教会
研修教会：福岡ベタニヤ村教会

ハレルヤ！今も生きて働かれる主の御名を心から賛美します。最終学年になりました。これまでの豊かな神学生生活が私によってではなく、神さま、そして神さまが出会わせてくださった、愛する皆さまのお祈りによって可能だったと確信を持って告白できます。最後の一年だからこそ、神さまが遣わされる場所・教会のために祈り、より聖書に戻って心を整えている時間を持っています。6年以上の神学生期間を経ても、変わらず至らぬ小さきものですが、神の宣教のために用いられることを感謝しつつ、卒業する時まで切磋琢磨、整えていきたいと願います。今後の働きが最初から最後まで主が導いてくださることを願い、主にある尊き神の家族と共に喜びあう教会生活となることを期待しております。



神学部4年 長尾 基詩
推薦教会：府中キリスト教会
研修教会：姪浜キリスト教会

神学部4年目となりました。教会研修の説教前、ある先輩の牧師から私は「現場に出ていくことを大切に」人間だと紹介を受けました。そんな風に思ってくれているとしたら、とても嬉しいことです。この学びの時にできるだけ多くの交わり、出会いに開かれていきたいと思っています。福音は世界の片隅のそこかしこで現わされています。中心からではなく、周縁から真の福音を聞きに行く。そんな神学部生活でありたいと願わされます。



神学部3年 伊藤 健一
推薦教会：日本キリスト教会福岡城南教会
研修教会：日本キリスト教会福岡城南教会

初めまして。3月まで他大学で教員を務めておりましたが、定年退職に伴い、神学の学びを志しました。西南学院大学神学部は神学の学びを進めるのに最適な環境と思い、学士入学させていただきました。教会では長老として牧師不在時に、さらには無牧師教会の多い日本キリスト教会にあって、他教会でも説教奉仕をさせていただきましたが、神学の系統だった学びが今後に向けて不可欠だと痛感して今日に至ります。どうぞよろしく願いいたします。



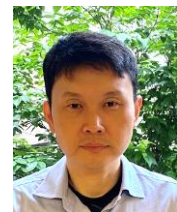
神学部3年 張 恩榮
推薦教会：西福岡のぞみキリスト教会
研修教会：西福岡のぞみキリスト教会

本年度、学士入学3年次に編入し、神学生としての第一歩を歩み始めました。ここまですさまざなところで、支えと励まし、お祈りに覚え続けてくださった方々に心から感謝します。これからは、主に導かれた人生をイエス様が授けてくださったことに応答しつつ、主がお持ちのご計画を見極めることができるように、へりくだって主の導きを求めたいと思います。神学の学び、教会奉仕、寮生活のうえにも、主が望んでおられる歩みができるように、日々の行いが主の栄光を表すことができることを願っています。



選科2年 石原 誠
推薦教会：常盤台バプテスト教会
研修教会：伊都キリスト教会

日頃のお祈りとご支援を心から感謝いたします。神学部特別研修生の時を合わせると神学部での学び3年目に突入致します。神学は学べば学ぶほど奥が深く幅も広いと思われ、学びの選び取りの重要性を考えさせられます。その選び取りが私の思いではなく、み心であるようにと日々祈り、主と共に歩むことが許されている毎日に感謝しております。2024年度も神学生という貴重な時間を有意義で実りあるものとなるよう主を信頼し、主に依り頼み邁進してまいります。



選科1年 大野 学
推薦教会：鉏路バプテスト教会
研修教会：長住バプテスト教会

西南学院大学神学部におきまして、学ぶ環境をお与えくださる主に心より感謝いたします。大学での授業を受けるほどに、自分が牧師としてやっていけるのかという不安に襲われる日々ですが、謙虚さと素直さだけは、忘れずにこれから歩んで参りたいと考えております。



専攻科 奥田 悟
推薦教会：東京北キリスト教会
研修教会：福岡城西キリスト教会

最終学年を迎えることが出来ました。いつも伝道者養成の協力伝道の業に、神学生の為にお祈りとご支援のおかげと、感謝いたしております。より一層、牧会の現場で主の為にはたらくことを意識して最後の一年を過ごさせていただきたいと願います。今日のバプテスト教会に様々な課題がある中でも、信仰の事柄に注目しています。専攻科での論文のテーマは「信仰の内省化」についてです。よりキリスト教が本来内包している内的な部分に我々はどう取り扱うのか、学びを深めて参る所存です。主が導いてくださる道程に希望と期待をもって、献身の道を全うさせていただければと願います。どうぞよろしく願いいたします。